

一六
北
支
那
方
面
部
隊

-195-

1872

年 月 日	略 歴
昭和一六 一 二五	昭和十六年軍令陸甲第一号により編成下令
一 三一	北支那經理部下士官候補者教育部編成完結（北京）
一 三一	爾後同地に在りて支那事変勤務並に大東亞戰役支那方面勤務に従事
二〇 八 一五	停戦
一〇 五	現地復帰

北支那經理部下士官候補者教育部

北支那衛生部下士官候補者教育部

年 月 日	略 歴
昭和 一六 一 三 二	軍令により編成下令 方軍参編第三十四号により北支那衛生部下士官候補者教育部編成完結（北京）
二〇 八 一 五	同日より衛生部下士官候補生の教育並に同地週辺の警備に従事 停戦
九 二 七	方軍参編第四十号により復帰下令 同日現地復帰完結

北支那防疫給水部		年	月	日
昭和一五	二	三	二	三
至自	一九	六	四	二
	二〇	八	一	四
		八	一	八
		八	二	九
<p>軍令陸甲第四号に依り北支那防疫給水部編成下令 北支那防疫給水部編成完結（北京） 爾後北支那北京に於て防疫給水に關する業務に従事 一部は北支那方面直轄野戰病院診療班本部附として京漢作戦に参加 停戦 復員下令 現地復歸完結</p>				

第百五十四兵站病院

年	月	日	略	歴
昭和二〇	二			軍令陸甲第十八号に依り第百五十四兵站病院編成下令
	三	一五		編成完結(北戴河)
	八	一五		停戦
	八	二五		復員下令
	二	一〇		内地帰還のため泰皇島出発
	二	一四		博多港上陸
	二	一四		復員完結

第五師団第四陸上輸卒隊

昭和	年月日	略	歴
二二	八	八	軍令により編成下令
一〇	一四	八	第五師団第四陸上輸卒隊編成完結
一五	三	一〇	河北省太沽上陸
一七	一〇	一四	塘沽に本隊移動、兵站事務所長の指揮下に入る。兵站関係の蓄備及び事務に従事 兵站関係の蓄備事務及び貨物廠の蓄備
一九	四	一〇	第一水路輸送隊の指揮下に入る
二〇	八	一五	青島分遣隊 四十二名
二〇	一五	一五	天津 二十五名
二〇	一五	一五	泰皇島 二十五名
二〇	一五	一五	天津兵器廠へ 二十五名
二〇	一五	一五	停戦
二〇	一五	一五	天津に集結（青島分遣隊四十二名を除く）
二一	一九	一九	天津出發
二一	一九	一九	塘沽出發
二一	二二	二二	佐世保入港上陸
二一	二三	二三	復員

戦車第三師団工兵隊

年	月	日	略	歴
昭和	一七	一一	二六	軍令陸甲第四二号依り戦車第三師団工兵隊編成下令
		一一	二四	編成完結(包頭)
				同日より包頭附近の警備
	一九	三	二六	包頭出發
		三	二九	順徳着
				同地附近の警備
	自	一一	一七	一〇
		二〇	二六	漢口集結
		六	二六	天津着
		七	二五	天津出發
		七	二六	北京着
		八	一五	停戦
		一一	二四	内地帰還のため長辛店出發
		一一	二六	塘沽港出帆
		一一	三〇	佐世保港上陸
		一一	三〇	復員完結

第四十七師団防疫給水部

年	月	日	略	歴
昭和一九	六	二九	第四十七師団防疫給水部動員下令	
	七	一五	動員完結（弘前において）	
	一	二九	支那派遣のため弘前出発	
	二	三	下関港出帆	
	二	三	釜山港上陸	
	二	〇	一七 鮮満国境（安東）通過	
	一	八	満支国境（山海關）通過	
	四	一〇	湘南府湘潭着	
至自	六	四	〇一 湘西作戰戦参加	
	六	三〇	転進のため湘潭出発	
	八	一五	停戦	
	八	二五	復員下令、現地復帰	
	八	二五	人員は第一野戦病院に編入	

182

独立混成第二旅団独立歩兵第五大隊

年	月	日	略	歴
昭和一三	三	一五	昭和十三年軍令陸甲第九号により編成下令	
	三	一〇	独立混成第二旅団独立歩兵第五大隊編成完結（北京）	
	四	二七	蒙古聯合自治政府張家口特別市に移駐	
		二七	同地区警備	
	一	四	北支山西省靈邱に移駐同地区警備	
	一	六	蒙古聯合自治政府張家口特別市到着	
		二四	同地区警備	
	一	八	蒙古聯合自治政府張北に移駐同地区警備	
	一	九	綏遠省薩拉齊に移動同地区警備	
	二	〇	蒙古聯合自治政府張家口移駐同地区警備	
		八五	停戦	
	八	一〇	河北省南口ニ集結	
	一	一〇	河北省塘沽ニ集結	
	三	一	塘沽出帆	
	三	六	佐世保上陸復員	
	三	四	佐世保上陸復員	
	三	三	復員完結（残務整理者）	